

人と魚と海のネットワーク  
**香川県漁連ホームページ**  
<http://www.jfnet.ne.jp/kagyoren/>  
 E-mail:gyoren@ns.kagawa-gyoren.or.jp



**JF** 高松市北浜町 8 - 25  
 TEL 087-825-0350  
 FAX 087-851-0699  
**J F 香川漁連**

## 「西かがわ漁業協同組合」が正式に発足!!

豊浜町漁協、室本漁協及び大野原漁協の組合長ほか関係者は、平成 14 年 12 月 27 日午前 10 時、豊浜町漁協の玄関に新しい「西かがわ漁業協同組合」の看板を掲げられました。また同日、県水産課担当職員より交付を受けた「合併認可書」を添えて、直ちに法務局へ合併登記の申請がなされ、当初の予定どおり同日付で合併となり、名実共に新しい漁協が発足しました。

この合併は、平成 14 年 5 月 16 日に合併推進協議会を設置して以来、僅か 7 ヶ月余の短期間に成し遂げられた三市町に跨る広域合併ですが、これまで漁協の健全な運営に努められ、合併という大事業を成し遂げられた三漁協の組合長、役職員及び組合員各位の皆さんの、大いなる理解と実行力にあらためて深く敬意を表します。

また、平成 15 年 1 月 14 日午前 10 時から西かがわ漁協の初めての臨時総会が開催され、新しい理事 5 名と監事 2 名が選任され、理事の互選で新組合長に小濱福重氏が就任されました。

‘新生’西かがわ漁協が、地域漁業の発展に貢献され、将来の更なる合併に向け、益々その基盤の強化に努められることを祈念しつつ、今後においても特段の支援をしていきます。

この合併により、平成 8 年まで県下に 57 漁協あったものが、43 漁協となりました。

### 「西かがわ漁業協同組合」

- 本 所 (旧豊浜町漁協)  
香川県三豊郡豊浜町大字和田浜 1476 番地
- 室本営業所 (旧室本漁協)  
香川県観音寺市室本町 378 番地 26
- 大野原連絡所 (旧大野原漁協)  
香川県三豊郡大野原町大字花稻 385 番地

- |         |    |    |
|---------|----|----|
| 代表理事組合長 | 小濱 | 福重 |
| 副組合長理事  | 合田 | 靖雄 |
| 理 事     | 合田 | 宏  |
| 理 事     | 宝田 | 浩三 |
| 理 事     | 合田 | 誠志 |

監 事 真田 謙  
 監 事 一方隅 毅



新しい「西かがわ漁協」の看板と組合幹部の皆さん

## 詫間地区で合併協議が大きく進展!!

平成 14 年 12 月 10 日 (火) 午前 10 時から大浜漁協において、三崎漁協と大浜漁協は両漁協の全役員と香川県水産課担当職員、詫間町経済課長、香川県漁連組織強化推進室長ほか関係者多数が出席するなか、第 2 回三崎・大浜漁協合併推進協議会 (会長: 亀野大浜漁協長) を開催し、組織強化推進室が提示した合併契約書 (素案) を慎重に検討するとともに、平成 15 年 4 月 1 日に合併することが再確認されました。

また、同日午後 3 時から詫間漁協において、詫間漁協と箱浦漁協も第 2 回詫間・箱浦漁協合併推進協議会 (会長: 田島箱浦漁協長) を開催し、同じく合併契約書 (素案) を検討した結果、詫間漁協を本所に箱浦漁協は支所とする、合併新組合の名称は「詫間漁業協同組合」とする、等々の重要事項が決議・承認されるとともに、当初の予定通り平成 15 年 4 月 1 日に合併することが再確認されました。

両協議会とも解決すべき課題が残されていますが、関係者の努力が実り晴れて合併が成就されますよう、県や地元町とともに今後とも支援・指導をしていきます。

(組織強化推進室)

## 瀬戸内の味覚を全国へ！

### 瀬戸内の海と魚に親しむ会を開催！

全国から高松の支店に赴任している各種企業の支店長を対象に香川の漁業や魚料理をPRする「瀬戸内の海と魚に親しむ会」が12月7日、直島漁協魚類養殖漁場、県漁連漁業研修センターなどで開かれ、県魚ハマチを使った料理づくりに挑戦した。

この親しむ会は、高松への赴任者を通して、養殖業をはじめ県内漁業の様子や、魚のおいしさを全国に発信してもらおうのが狙いで、「香川の観光ふるさと・さかな料理」「県魚ハマチ」を主体とする県産水産物を活用してのPRを行い、消費拡大を目的とした事業の一環として、(社)香川県水産振興協会が本年度から始めた取り組みである。既に、第1回は10月に小型底曳網漁業の見学と漁獲物の料理教室、第2回は11月に市場流通見学と意見交換会を実施しており、今回で3回目の開催となる。

この日は、各企業の支店長ら18人と、県農林水産部玉地部長、打越次長ら合計24人が参加し、小雨模様の中、早朝からチャーター船に乗り込み、直島漁協のハマチ及びノリ養殖漁場とノリ加工場を見学した。

ハマチ養殖漁場では小割に船を着け、餌やりの状況に目を見張り、ノリ養殖漁場では、潜り船(刈取り船)がノリを摘採する状況を目の当たりにし、初めて見る光景ばかりに驚嘆しながらも素朴な疑問を次々に投げかけていた。その後、上陸し直島漁協岡田組合長のノリ加工場を見学したが、あまりの規模の大きさに再び驚き、加工場の設備費、製造工程、生産枚数、生産金額等々多くの質問をしながら、原藻や出来上がった乾海苔を手に取り、ノリ生産の大変さに感心した様子であった。

直島での見学後、高松に帰港し、漁業研修センター調理教室に会場を移し、料理教室で腕を振るった。支店長らは、高松中央市場鮮魚商協同組合の泉さんらの手ほどきを受けながら、次々に真剣な表情で約4kgの新鮮なハマチを三枚おろし、切り身、刺身と上手に切り分け、見事な？包丁捌きに拍手喝采を浴びていた。各々包丁を手に腕を振るった後、包丁をさぬきの粒味噌に持ち替えて、みそ漬けづくりに奮闘した。みそ漬けは、自身のお土産ということもあってか？一切れ一切れ丁寧に、樽に並べて漬け込んでいた。約1時間で「みそ漬け」「刺身」「しゃぶしゃぶ」の三品を作り上げ、自分達の力作に満足気であった。

その後、試食会に移ったが、参加者はみな口々に「美味しい、美味しい」と笑顔で箸を進めていた。ある支店長は、「この催しには今後も積極的に参加し、本社に帰っても、また他県に赴任しても、香川県の魚の美味しさをみんなに広く伝えていきたい。」との心強いコメントをもらった。主催者側からは、今後、『香川のお魚大使、お魚応援団』となってくれるであろう、高松の支店長さん各位に大いに期待していることを伝え終了となった。



真剣な表情でハマチを捌く参加者

## 2002年最後の大鍋大会

庵治漁協活き活き日曜市では、開店5周年記念イベントを“讃岐でんぶく幸福大鍋フェア”と銘打って、12月29日(日)に庵治漁協産直市会場で開催した。

大鍋は、直径60cm、高さ80cmあり、この大鍋2つにナシフグを主材にダイコン、ニンジン、ネギを入れ、白味噌仕立てのフグ汁にし、1,000人分を用意した。

日曜市は、午前9時の開場であるが目当ての魚を買おうと早朝より集まった来場者に振舞われた。試食をした参加者は「おいしい」「身体が暖まってホットした」「フグは好物で、今日は寒いから中でフグを買って帰り、今晚はフグチリにでもしようかな！」等と言いながらおいしそうに食べていた。試食を終えた参加者は、底曳漁業者、婦人部員、養殖漁業者などが用意した活魚(ハマチ・スズキ・タイ・カレイ・メバル・タコ・カニ・エビ等)鮮魚(ゲタ・キス・小ダイ・イカ・イダコ等)天ぷら(エビ・タコ・イカ)加工品(イカナゴくぎ煮・チリメン・海苔の佃煮)等を我先にと買っていた。

新鮮な上に市販の約2~3割安とあって、用意された魚介類は30分足らずで殆ど売り切れた。

ハマチを抱えた客は「これで正月準備は全て整った。正月にはハマチを刺身に一献かたむけ、のんびりと過ごしたい」と笑顔で家路へと急いでいた。また、9時に売り出しと聞いていたので、9時30分頃に来れば少しゆっくりと買い物ができると思って来た人は、早々に目玉の活魚が売り切れてしまって残念だと言って婦人部の天ぷら実演コーナーに並んでいた。

買い物をした後、フグ鍋の試食会を知り、大鍋コーナーで試食する人もあり、用意したフグ鍋は好評のうちに約1時間足らずで終了した。“讃岐でんぶく幸福大鍋フェア”を主とした庵治漁協産直市5周年記念イベントは約1,200名もの参加を得、成功裡に終了した。



ナシフグ大鍋試食会

## 冬の風物詩ゆ〜らゆら

冬の訪れを告げるゲタ（シタビラメ）の天日干しが、今年も土庄町小江で始まった。民家の軒先や防波堤で冷たい海風にゆられる様はなんとモリスであり、のどかな漁港の風情を一段と醸し出している。

シタビラメは、底曳網漁で周年漁獲されるが、冬に脂が乗って最も美味しくなる。底曳網で捕ったシタビラメを選別し、小さ目のシタビラメのウロコを丁寧に取り、海水で洗った後に塩をふって竹にとおし、冬の冷たい浜風に2～3日干せばおいしい干物ができあがる。

小豆島の北部に位置する同地区では、古くからシタビラメの天日干しがおこなわれているが、5年ほど前からは、イダコや小エビの天日干しも始まり、ともにご近所や親戚の人からも好評で、いつのまにか口こみでおいしいとの噂が広まり、左党から「酒のさかなに最適」と喜ばれている。

やわらかな日差しを受けて透き通った珍味の`す

だれ`が、瀬戸の潮風にゆらぐ姿と、昔ながらの町並みが相まって、日本の風景をつくり出している。



シタビラメを干している状況

## 海面漁業 経営体、就業者数最低に

### 高齢化など一層深刻化

中国四国農政局香川統計事務所がまとめた2001年の漁業動態調査結果によると、県内の海面漁業の経営体数（個人、事業所）は2,329、就業者は4,010人でともに過去最低を記録した。10年前の8割弱の水準に落ち込んでおり、高齢化や後継者不足を背景に漁業離れが進む現状を浮き彫りにしている。

まとめによると、経営体数は前年より63（約2.6%）減少した。内訳は、個人が2,141（前年比2.9%減）、団体漁業経営体は188（同0.5%増）で、個人の落ち込みが目立っている。

就業者数（推計値）は前年を140人（約3.4%）下回った。年齢別（男性）では60歳未満が100人減った一方、60歳以上が60人増え、高齢化に拍車がかかっている。60歳以上の割合は全体の約56.1%を占めている。

主とする漁業種別では、海面漁業は小型底曳網が最も多く724（前年比2.2%減）、次いで、刺し網が481（同5.7%減）、釣りが202（同0.5%減）だった。

海面養殖は、ノリが251（前年比6.0%減）、ブリ類が104（同12.6%減）に減少した一方、価格の安定しているカキ類が75（同13.6%増）に伸びた。

同事務所は「厳しい漁業環境や経営主の高齢化などから、今後も経営体数の減少傾向は続く」と分析している。